



宇宙の端っこへの旅



ちょっと見ただけでは何もない空の一部をハッブル宇宙望遠鏡で見るとどうでしょう？まるで宇宙の端っこまで旅したような景色がみられます。

似たような大きさの空を10コ切り取ってならべることができました。この写真の幅は、満月の直径の10分の1よりも小さいです。とても小さいにもかかわらず、空のひとつの切れはしがおよそ10,000コの銀河を含んでいます。そして、そのいくつかは地球から130億光年以上離れているのです！

空のこの小さな区画は以前2004年にハッブル宇宙望遠鏡によって写真を撮られました、しかし、この時の写真は天文学者にある疑問を残しました。この写真は、近くの銀河で生まれる星についてだけでなく、もっとも遠い場所にある銀河で生まれる星についても多くのことを教えてくれました。

しかし、宇宙の大部分の星が生まれた時期である50億～100億光年離れたところに生まれた星の構造についてごくわずかな情報しかありませんでした。そのため、その時期に誕生した、最も熱くて、最も巨大で、最も若い星のことはまだあまりわかっていませんでした。

これらの星は、日焼けを引き起こすという大量の紫外線を照射します。それで、NASAはハッブル宇宙望遠鏡を使って超深宇宙紫外線領域調査というプロジェクト（UVUDF）をはじめました。この画像は、そのプロジェクトで集められたものです。

紫外線を使って観察することで、このプロジェクトは我々が完全に、星がどのようにしてできたかを理解する手助けになるかもしれません。そして、銀河が非常に熱い星の小さな集まりから、現在の巨大な集まりにどのようにして大きくなっていったかを知ることができます。

COOL FACT

ハッブル超深宇宙探査計画の画像は、NASAによってされるいくつかの画像のうちのひとつでした。最新のものは最果ての深宇宙と呼ばれていて、10年以上かけて撮影されたハッブル画像を組み合わせることでつくられました。人間の目にくらべると、100億倍もかすかな画像を写真に撮ることができます。

この記事はハッブル宇宙望遠鏡のプレス発表によります。





More information about EU-UNAWA
Space Scoop: www.eu-unawe.org/kids/